

救世の勇者のやり部屋

III

R-18
成人向け

Ver. M
original



ほんとう
本当にこんな森の中に
おらっしゃるんですか？



マグワインの館は
王室の最重要
極秘事項だ

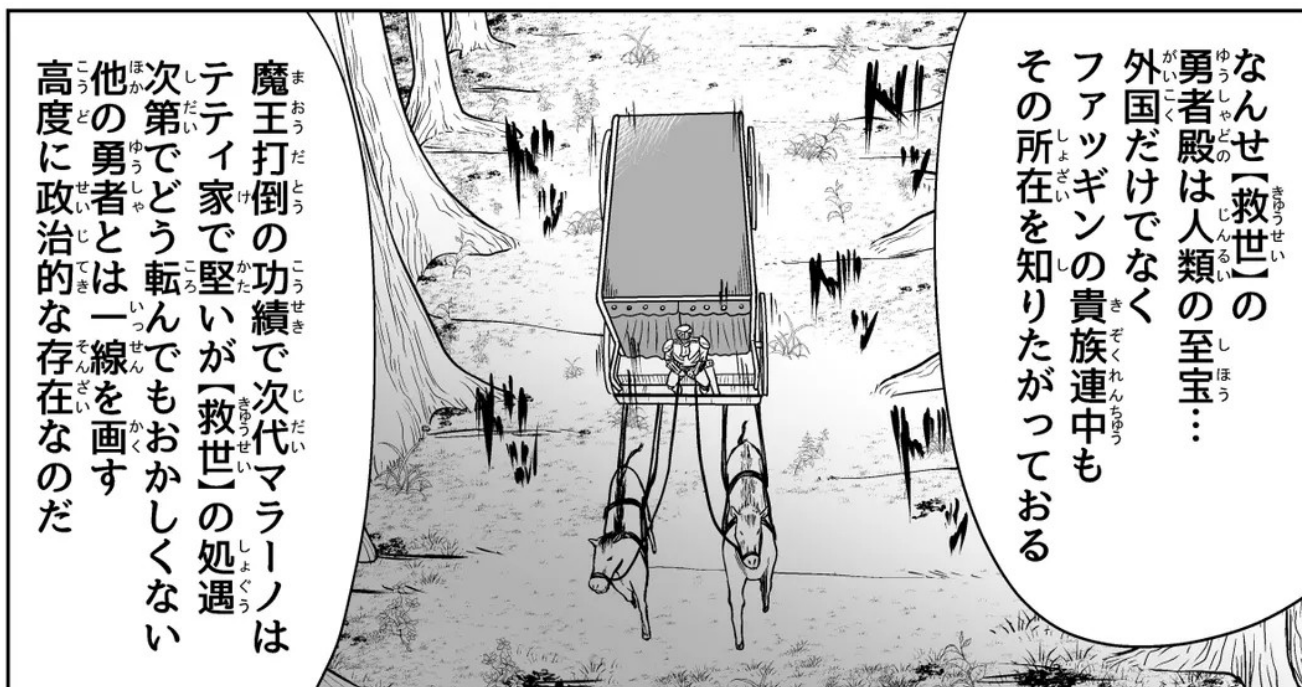
そこらの輩に
簡単に見付かる
ような場所に
建つとるわけなからう

ファッギン公国 大臣
ケーモン



もうここは人類領域の外…
いつ魔物と遭遇しても
おかしくありませんよ…

ファッギン公国
正規兵団 兵団長
レイプス



なんせ「救世」の
勇者殿は人類の至宝…
外国だけでなく
ファッギンの貴族連中も
その所在を知りたがっておる

魔王打倒の功績で次代マラーノは
テイ家で堅いが「救世」の処遇
次第でどう転んでもおかしくない
他の勇者とは一線を画す
高度に政治的な存在なのだ

おい
馬の速度を緩めろ

はっ…

しかし依然木しか
無い所ですが…

館は突然現れる

我々が向かって
いる場所は
魔女の住む…

いや

ばけ物たちの
棲まう館だ



救世の勇者のやり部屋 Ⅲ





モイッ
助かったあ！

ありが…っ
ありっ ありっ

活きの良い
お皿っスねっ



ほっ！



は…私樹人だから
アストラルの通つてない物
わっかんないんですよ…

磁器…？
石じやん…
木器じや
だめなの…？

あーりや

へな
へなへな



これくらいのかで
軽く支えてあげて
灰汁で汚れを
落とすんス

なるほど…



濡れた磁器は
滑るっスから
優しく持つんスよ

わっ





あんな
小さいのに…

あっ

あっ



あっえっあんな！
小さいのに!?

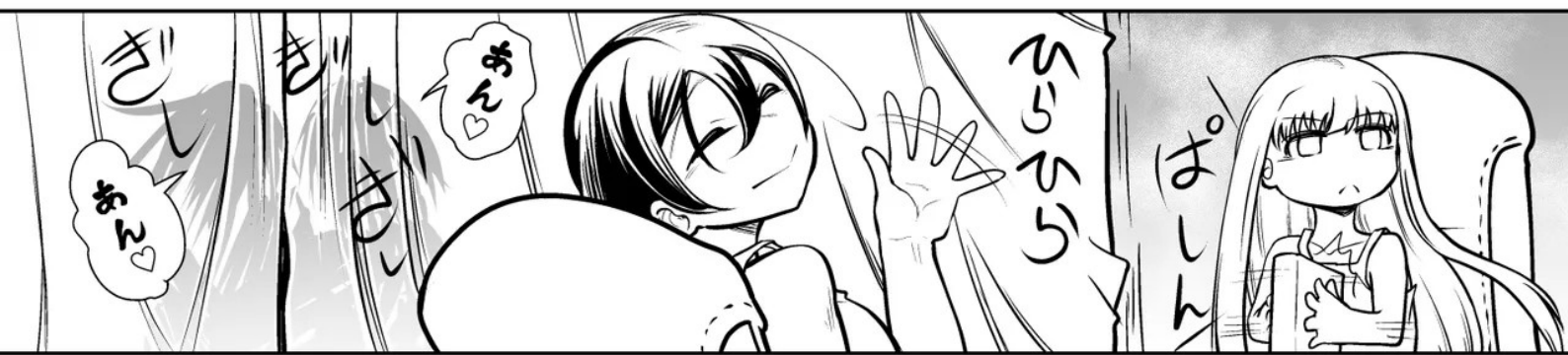
しー！
しー！

噂してるの
婦長に聞かれたら
怒られるわよ！



性交…
してるんだ……

失礼しますっす……



ひらひら

よしん

あん

あん



ミディの
調子はどう？

はい！頑張っ
てらっしゃいますよ



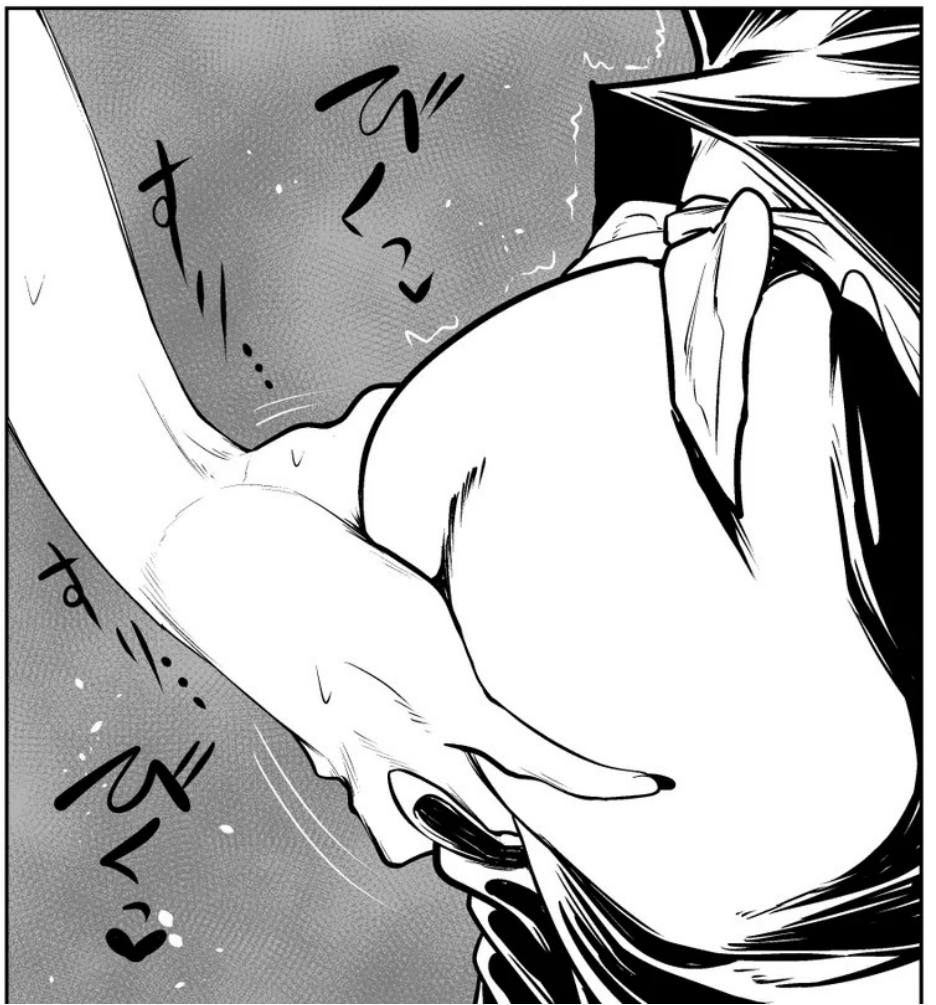
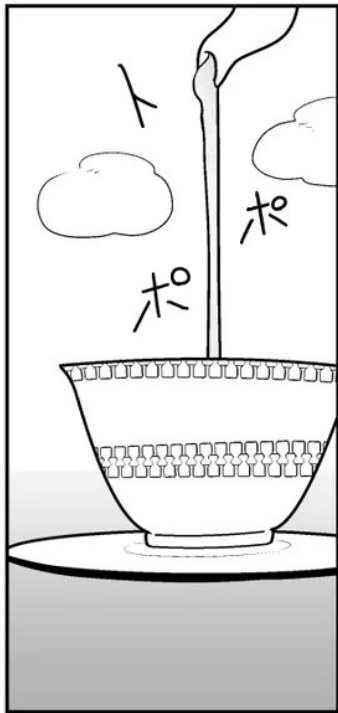
ご機嫌麗しゅう
ございます
お二方

何か
お飲みに
なりますか？

りんご

私はミルクティが
いいな

かしこまりました







モイ
イクよ

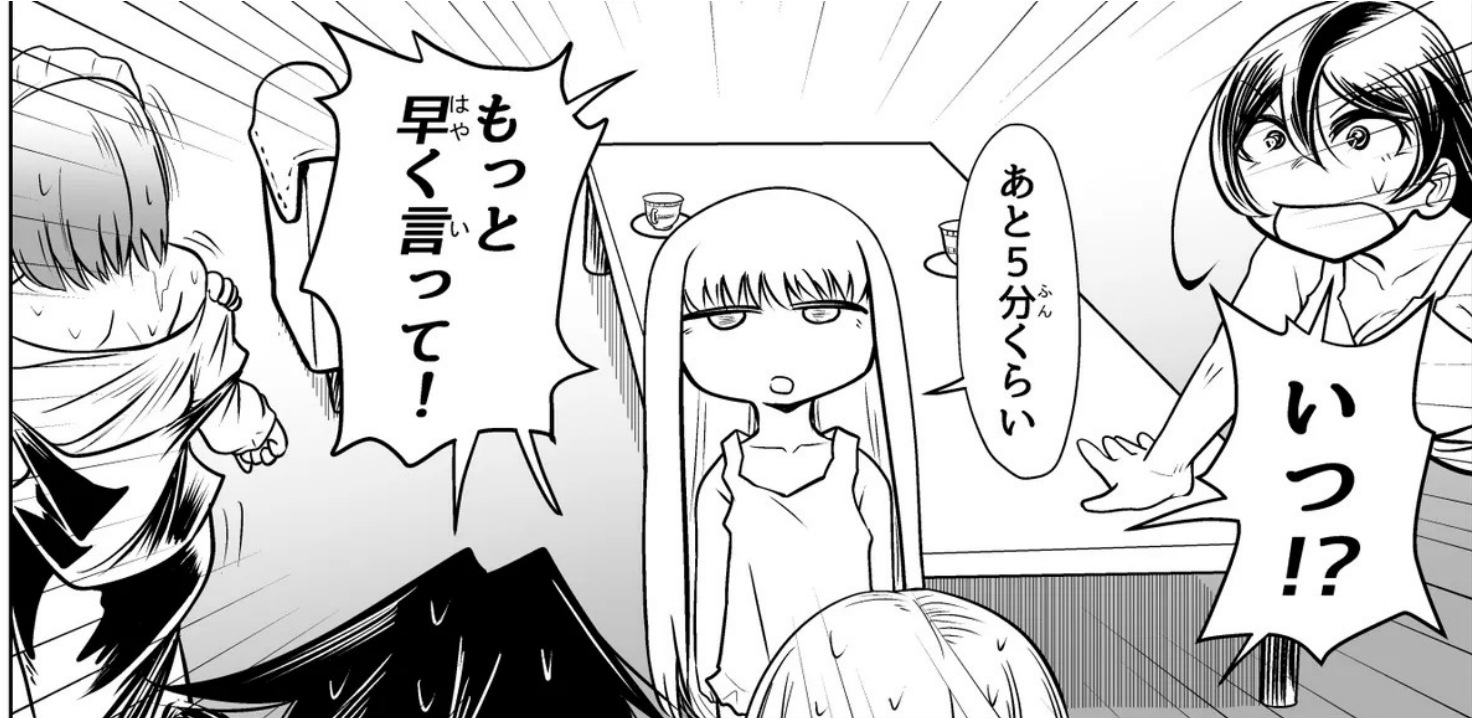
待つ♡
だめ!

ごめんなさいっ!
ごめんなさいっ!
ごめんなさい——

ぎゅっ
ぎゅっ
ぎゅっ









神的存在……っ

封印が緩み
目覚めていると

パドルファグ戦記
写本に記されました

パドルファグ戦記

五百年以上前より存在している
とされる奇書。長らく空想の
歴史書だと見做されていたが、
綴られたその文章が事実を
示していると明らかにになり、
国の重要参考書物として
管理される事となった。

物語調で書き記されている
その文章は、人智を超えた
魔導の力で現代まで自動書記で
更新され続けている。

現在では同等の機能を備えた
写本が三冊遺されており、
原本の行方は不明となっている。
三冊の写本はそれぞれ
ファツギン公国、
聖都センクシアン、
スボヌーボ帝国が所持している。

静寂の古龍は現存する
最後の神的存在ですが……

夜と昼の争いにより
ファツギン国領土北西の
バイオツツ山に封印されたと
されております

ちよつと待った
国防は軍の管轄でしょ

先に私たちに頼むのは
筋違いってもんよ

……
位置関係
ですね？

左様でございます

バイオツツ山は
ファツギン国領域際の端

スヘルマ海

バイオツツ山

ファツギン公国領土

メカノフェーア領土

バイオツツ山を越えた
北側に鉈人国家
『メカノフェーア』があり

現状の鉈人国との国交上
そこに軍を移動させるのは
挑発行為と捉えかねません

古龍復活の根拠は
パドルファグ所有国しか
わからない…

これは
厄介ね…

「ファツギンは〔救世〕を独占
している」という態度を見せる
諸国も少なくありませんが

これは私共も
不本意であります

〔静寂〕は
人類にとって
共通の脅威

〔救世〕の勇者が
世界の危機に
立ち向かう、
それは人類世界の
平安を謳う事と
なりましょう

この
エロジジイ
嫌なところ
突くな…

ぬぐりぬぐり…

ゼフオント様！

駄目です

僕が
メルセグニール
【静寂の古龍】を
討ちます

わかりました

もお〜!!
聞くことないのに!



ゼフオントは奉迎^{ほうげい}って
立場^{たちば}なんだから
ファツギンの要請^{ようせい}に
応^{こた}える義務^{ぎむ}は無いんだよ!?



それでも人々^{ひとびと}の
暮らしの上^{うへ}で
生きてるんだ

必要^{ひつよう}な時^{とき}に
僕^{ぼく}だけ遊^{あそ}んでい
るわけにはいかない



もおお
真面目^{まじめ}ちゃん
めえ〜!

あの〜...



なんなん
私^{わたし}まで
ど同行^{どうこう}するん
スか...?

わたし
戦^{たたか}かえ
ません
すすよ...?

ひいん

こわくないよ

やさしい
ペガソス

たたた
高いっすう!

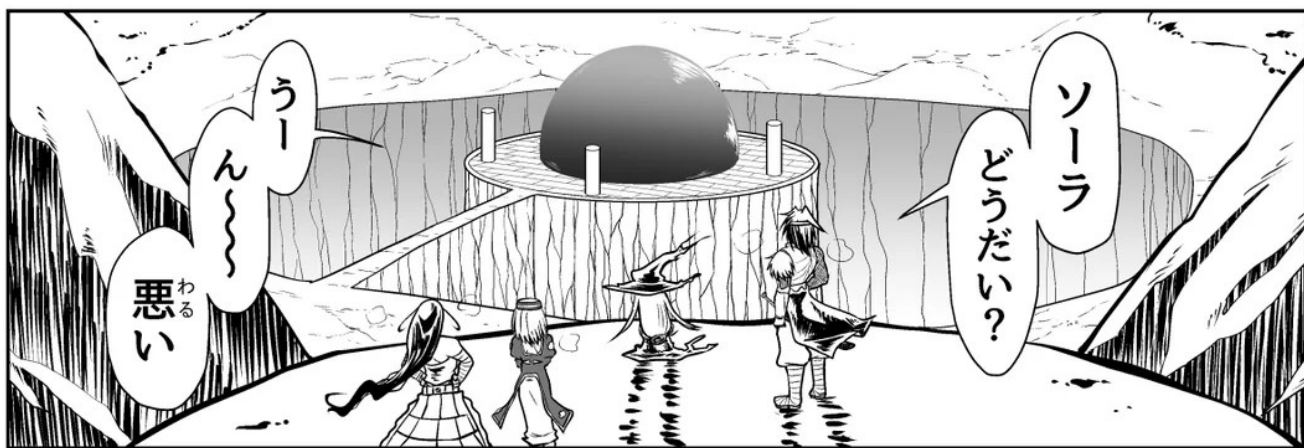


...今日^{きょう}は館^{やかた}に帰^{かえ}るには
遅^{おそ}くなりそうだからね...

大丈夫^{だいじょうぶ}
危^{あぶ}ない目^めには
遭^あわせないよ

むっ





救世の勇者のやり部屋 Ⅲ

神的存在

まず最初に男がいた。男には愛する女がいた。
女も男を愛していたが、蛇が女を拐かし、ひとつに交わった。
怒り狂った男は、女を天とし、蛇を地とした。
二つは永遠に分かれた。

憤りが支配する天と地の狭間。
闇が契約を結び、虚ろを埋めた。
安寧で男を包み、怒りを鎮めた。

光が新たに契約を結んだ。
明かりが天と地を照らした。
営みが起り、男の淋しさを慰めた。

光に切り裂かれた闇が声を荒げる。
先に契約を結んだのはこちらだ、と——。

闇に遮られた光が胸を張る。
こちらの方が役に立つ、と——。

闇と光の争い。
世界に夜と昼が始まった。







いやそれだと
古龍に逃げ道を
与えてしまう

ソーラを外に置けば奴は
結界を利用せざるを得ない



危険です
ゼフォント様!

同感だね

私ら全員で
結界に入ろう

それなら互いに
助け合えて
ソーラの火力が
通る



.....なら
中に入るのは私だ

わざわざ力場を
壊し回らなくても

あんたの剣で
結界を割りなよ

黒刀では
あの規模の結界は
断ち斬れない

精々穴を開ける
程度だな

それに
君の能力では
古龍に疵を
与えられても

生き延びる
のは難しい



そういう事で...

気を遣われ
たくない...!!

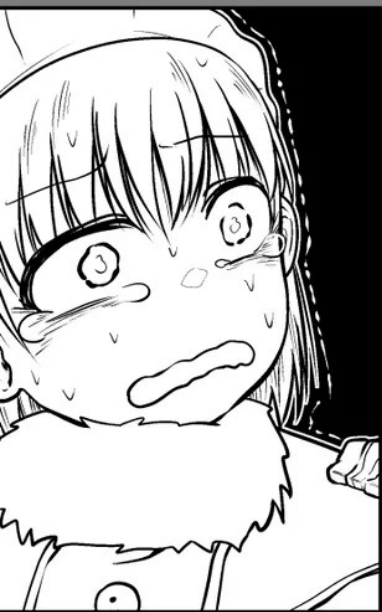


もう君だけの
体じゃないだろ



マリアーテ様
ご妊娠
なされてたん
ですか!?

来ちゃダメ
いやないさ...



魔王との戦いで
仲間を一人
失ってるの

私たちは…



心配ない
っすよ!

だって魔王も
倒した勇者様達
っすもん!

上手く行き
ますって!



ゼフオント様!

他の冒険者を雇って
周りの力場を
壊して貰いましょう

それならマリアーテと
連携が取れます!



なら
もう!!

私たちの
手には余るって
ことですよ!



下山するにも
通りがかるのを
待つにも
時間が掛かる

その間 奴が
動かない保証は
どこにも無い

大丈夫だ

別に破れかぶれで立案したわけじゃない

クリスタル
マリアーテが力場を壊し
きるのにペガサスを
使えば5分ほど

全部壊さなくとも
途中で境界が晴れる
かもしれない

これは全員が生きて
帰る為の作戦

その為にエメア…
君には辛い
役目を強いる

どうか僕を

信じてくれ

【救世】の勇者が
振るう大白刀

魔力的衝撃を吸収し
刀身から発生させる特性を持つ

いつかい
一介の冒険者が片腕で
握るには大きすぎる大太刀の

やいばぜんたい
刃全体から延長される
必断の白刃

なみ
並の魔物ならば

りようだん
両断は

ひっ
必至

せいじやく
【静寂】の古龍は
突如現れた
この平人を

きんき
脅威と認識した

シッ
ッ

ずじやう
頭に座する
アストラル
魔力の奔流



けっかい
結界の元を
はかい
破壊して周る
はくば
白馬の女
おんな



せいじやく
【静寂】を冠する古龍は
こりゆう



ぜふおんと
ゼフオント達の
しゅんじ
狙いを瞬時に見抜く
みぬ



こうわ
光話！

こうわ
光話とは

じゆういそんざい
上位存在が引き起こす
こうどう
高度な心的現象である。

ままだ
そこで交わされる対話は
たいわ
瞬きの間の出来事。

うそ
嘘や偽りは効かず、

だてごう
怒号に威圧される
こと
事もなく、

ぼうりやく
暴力に遮られず、

あ
そこに在るのは
たが
互いの意識のみ



二つの脚で立つ者よ
此の方の玉の緒を欲すか
欲深なる者よ
過ぐを求めらば
失うは身一つでは
済まぬと知れ



この世界の祖よ
地に立ち
空を背負う者たちの
代表として偃武を乞う



命脈を仇なさぬと
誓うならば
こちらも矛を
収めよう



奏でし者よ
愛らしい静寂に
放埒に増えたるは
貴様らの業



不埒な行いには
罰が下る
此の方の羽搏きが
六極世界最後の
轟きなりや



ならば：
また人は罪を
背負う事になる



あなたの死を以て
この危機を脱す

父祖ふそより賜たまわりし人々ひとびとの世よを救すくう為ため

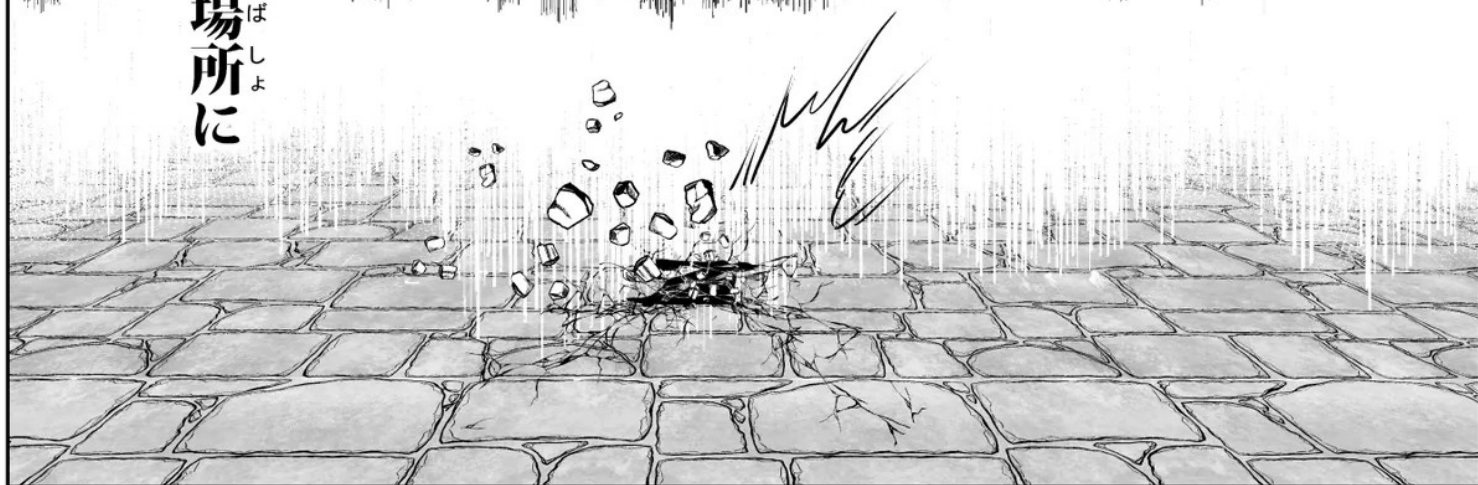


この愚おろかな蛮行ばんこうを許ゆるしたまえ

ひかり
光が は 晴れる——

世界が色を取り戻した
その0.2秒後

ゼフオントの立っていた場所に
雨のような炎が降り注ぐ



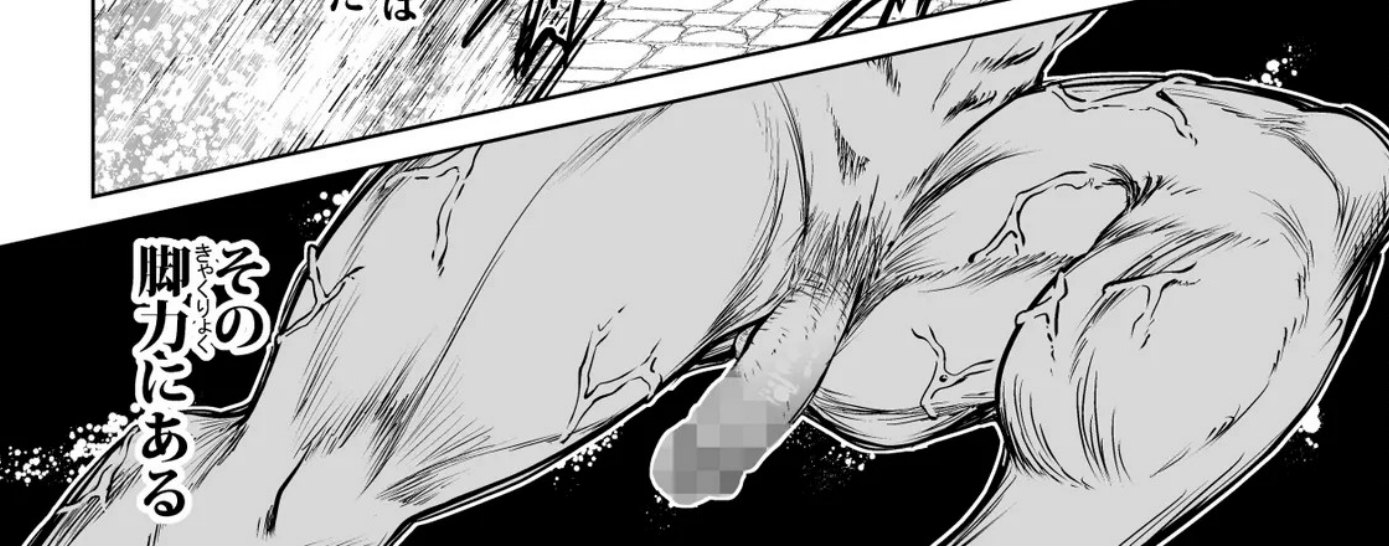
空気を焼く
炎の音が
目的の未達を
知らせる

その時ゼフオントは
「静寂」の足元に居た



「救世」の勇者の真価は

その
脚力にある



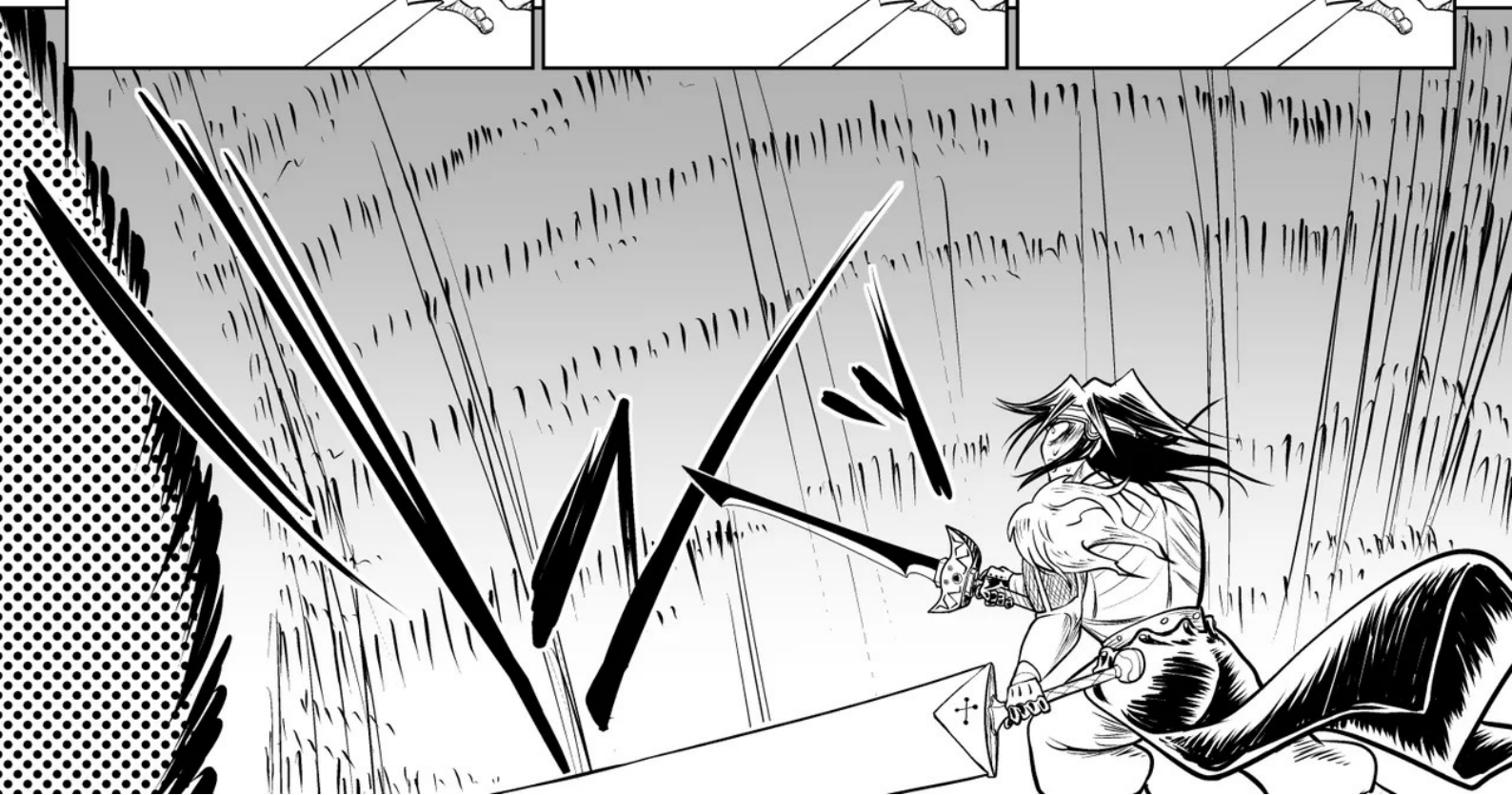
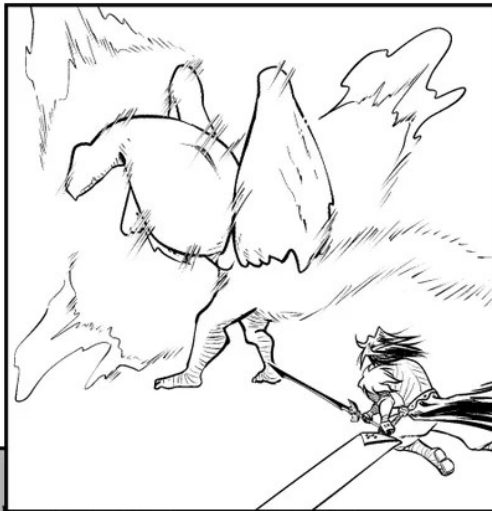
誰よりも速く
何よりも疾く

振り降ろされる凶刃が
牙無き者に届くよりも速く

そう願った
駆け続けた両の脚は

旅が終わる頃には
常軌を逸していた







しかし
その機動力も

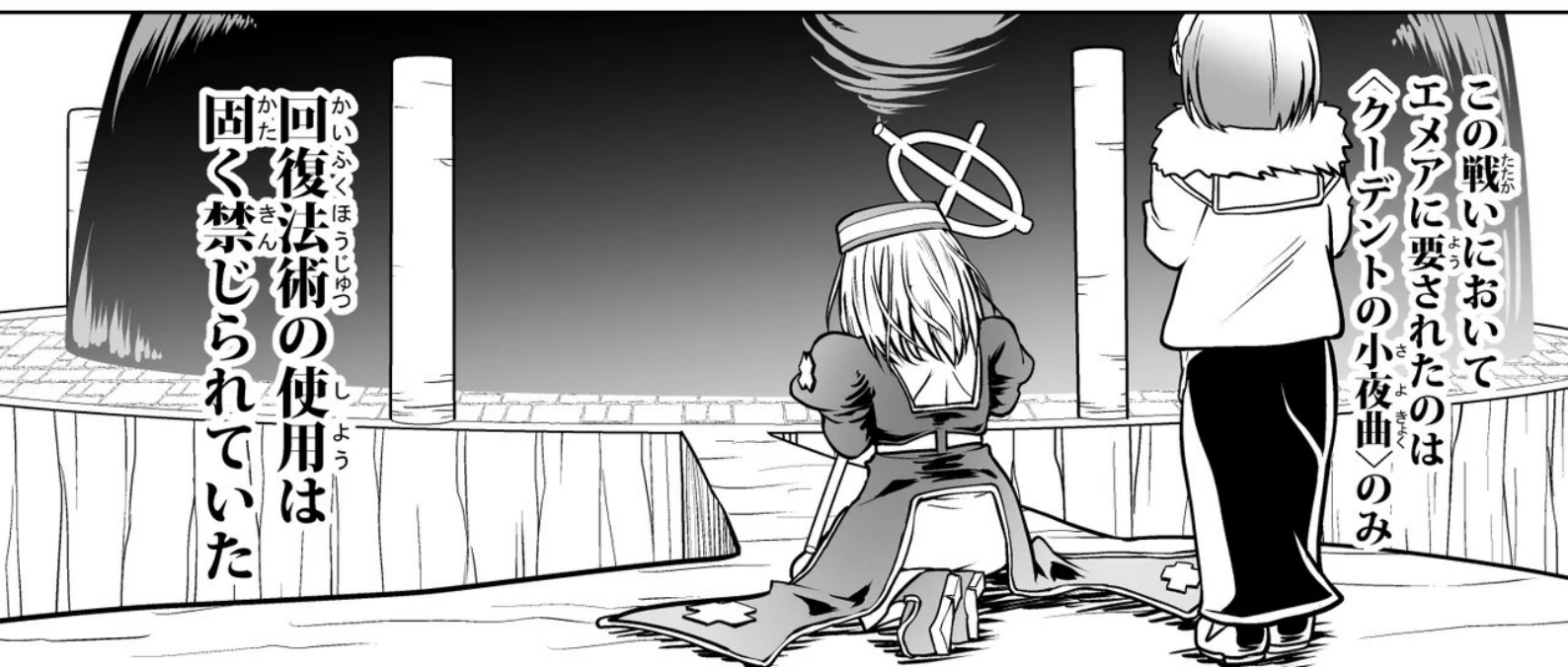
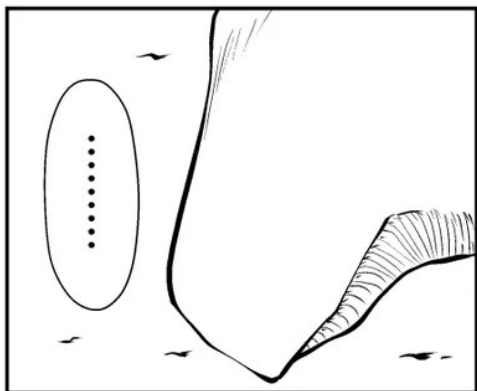
古龍との戦いでは
ただ体格差を
埋める程度の
技能でしかなく

そんな
存在の圧倒的な差は
埋まらない



「決定打を受けない」
たったそれだけの
勝利条件であっても

ゼフォントの消耗は
遥かに大きい



法術^{ほうじゆつ}ってすごいんすね

あんなに血^ちがどぼどぼ
だったのに跡形^{あとがた}も
無^なくなってるっス

そんな大した
もんじやないわよ

治^{なお}してるのは結局^{けつぎよく}
あなた自身の体^{からだ}だもの

魔法^{まほう}で治^{なお}して
るんじや
ないんすか？

アストラル
魔力^{まくりき}で
治癒^{ちゆりよく}力を増幅^{ぞうぷく}
してるだけよ

つまり
回復^{かいふく}には本人^{ほんにん}の
体力^{たいりき}が必要^{ひつよう}なの

当日^{とうじつ} あなた口^{くち}も
回^{まわ}らないくらい
へろへろだった
でしょう？

あの傷^{きず}の修復^{しゆふく}には
それくらい体力^{エネルギ}が
消費^{しょうひ}されたって事^{こと}ね

前^{ぜん}回^{かい}みたいなの
平時^{へいじ}なら問題^{もんだい}
ないけど

たとえば戦闘^{せんとう}中に
あんなへろへろに
なっちゃったら困^{こま}る

そして何^{なに}より
体力^{たいりき}が無いのに
過剰^{かじよう}に回復^{かいふく}させたら

場合^{ばあい}によっては
死^しんでしまう
事^{こと}もある

事前^{じぜん}に相手^{あいて}の身体^{からだ}を診察^{サーチ}して
おかなければいけないし

勿論^{もちろん}死^しんでしまったら
回復^{かいふく}なんて出来^{でき}ない

私の
リリッ...

その上^{うえ}でどの位^{くらい}
回復^{かいふく}させるか
その時々^{ときどき}の判断^{はんだん}が
私たち^{わたし}神職^{しんしやく}の腕^{うで}の
見せ所^{みせどころ}になるわ

ちなみにこの館^{やかた}の人間^{にんげん}は
もう診察^{サーチ}済^ずみだから

いつ大怪我^{おおけが}しても
だいじょうぶよ

いくら疲労を取り除こうと

いくら致命傷を避けようと

古龍と人との戦いである以上
すべてのダメージは免れない

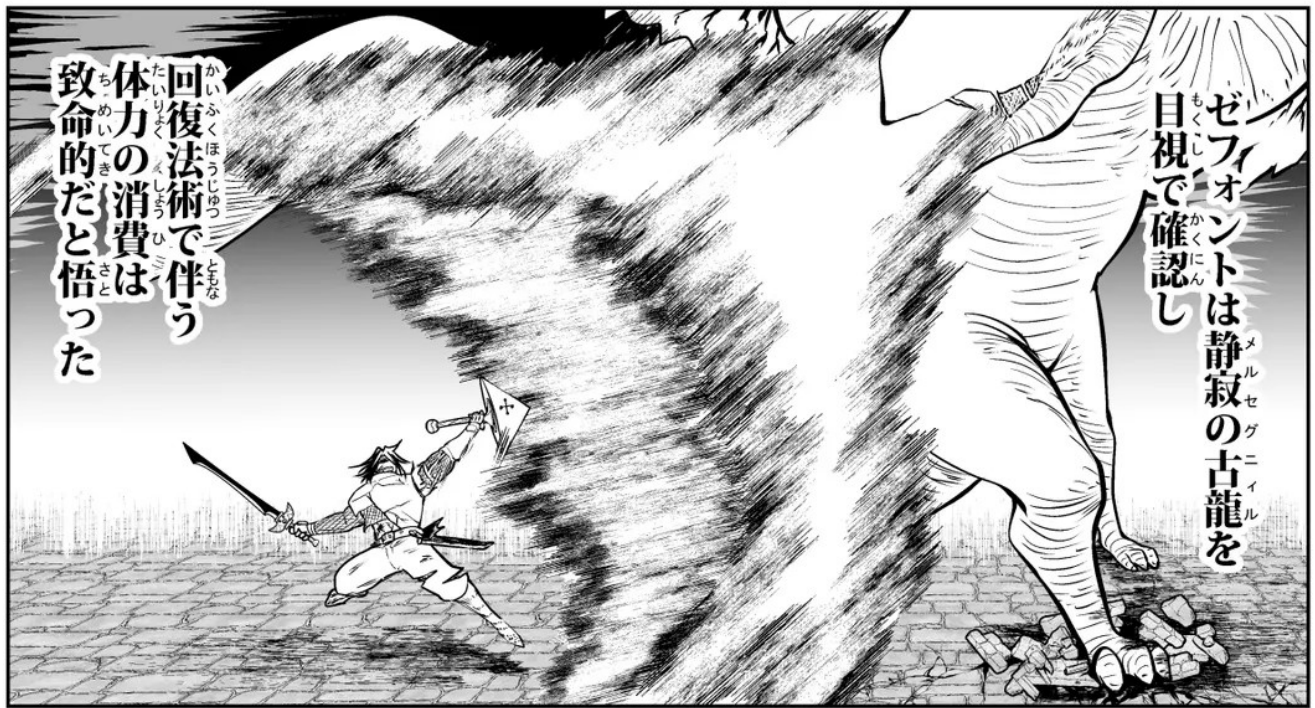
巨軀に碎かれ弾けた岩は

細かく勇者の
肉にめり込み
骨を叩く

大地の悲鳴の
ような轟音は
疾うに彼の聴力を
奪っている

灼熱の息吹は
当たらずとも空を燃やし

それを吸えば臓腑は焼け
通るだけで肌を焦がす



ゼフィオントは静寂の古龍を
目視で確認し

回復法術で伴う
体力の消費は
致命的だと悟った



故に

——エメア……

君には
辛い役目を強いる

求める



耐え忍び

どうか僕を

成し遂げてくれと

信じてくれ

彼女を信じて



かぶ
被り過ぎです!!!!

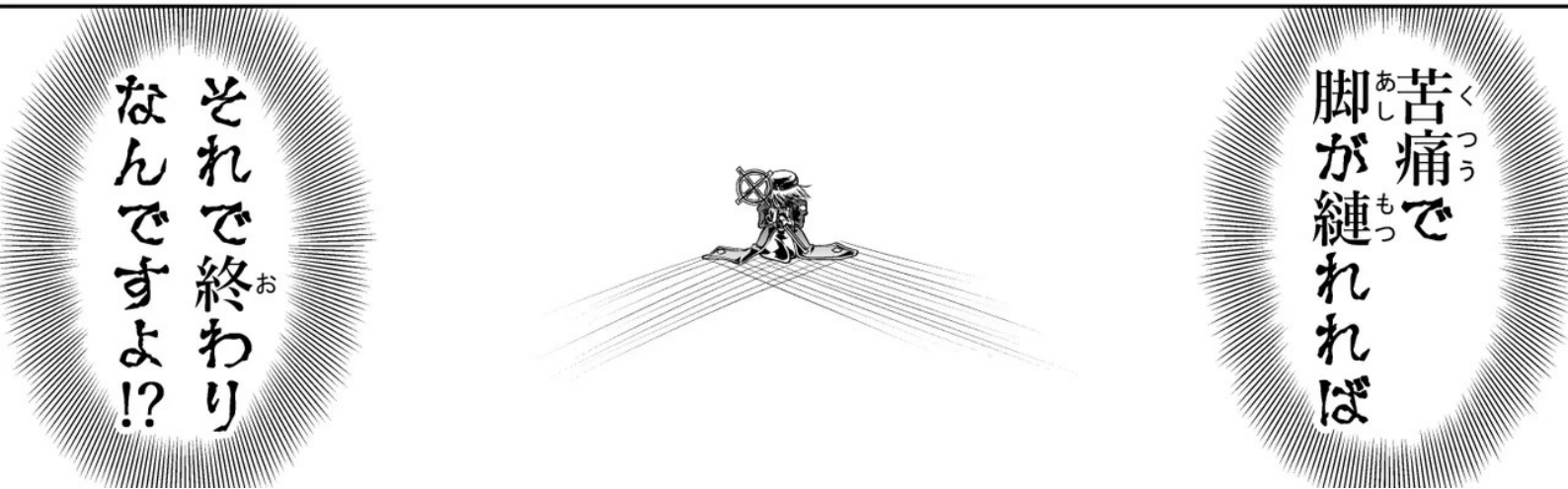
か
買いつ
ガ
タ



痛みを和らげる
と言っても
限度がある...!

エメア様...

何より傷を治して
ないから新しい
痛みが次から
次へと襲って
きてるんでしょ!?



苦痛で
脚が縛れれば

それで終わり
なんですよ!?



エメア様!?

回復法術で
死なない程度に
ゼフォント様の
体力を奪う!



私は
ゼフォント様
さえいればっ

こんな世界
どうなろうと
知ったこっちゃ
ない!!!



ソーラとマリアーテに
作戦の中止を告げ
結界内に呼ぶ!



動けない
ゼフォント様を
ペガサスに乗せる

何としても
ゼフォント様だけは
生きて逃がす!



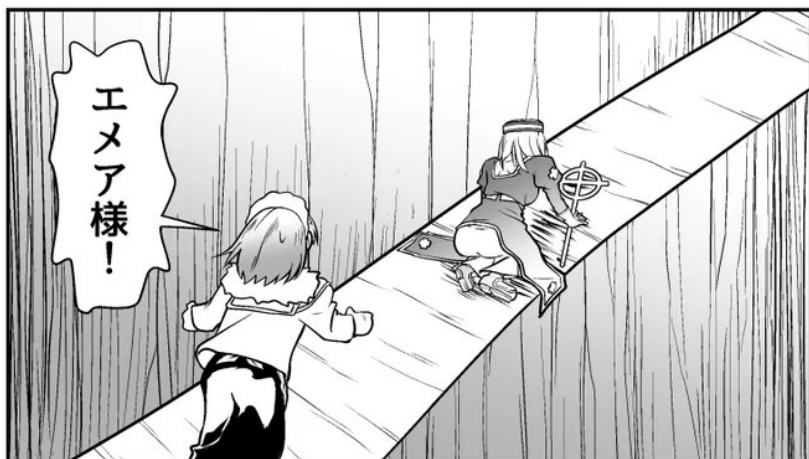
誰が
死のうと

私たちの内

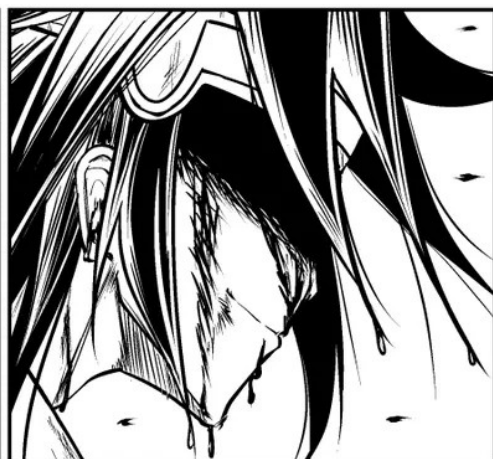


『クーデントの

さ
よ
き
く
小夜曲』



エメア様!



ゼフオントが
けっかい
結界に入り
ぶん
3分46秒

両鼓膜破損
左前腕火傷
右前腕完全骨折
左小指完全骨折
右側頭骨不全骨折
第9から第10右肋骨不全骨折

気道火傷
右下腿火傷

左前腕不全骨折
左大腕不全骨折
左下腿骨三カ所疲労骨折
右大腕不全骨折
右小指完全骨折
右側頭骨不全骨折
第9から第10右肋骨不全骨折

裂傷九カ所
打撲数多



古龍との一対一
この光景は
当然の結果と言える

すでに意識を
保つのがやっとの
満身創痍

未だ
結界は晴れず……

黒々とぶ厚い
結界の内部を
視認する術を
エメアは
持っていないが、

魔力を通す
装飾品を通じて
ゼフォントの
状態を正確に
把握していた



そして結界の解除を
担っているマリアーテが

ペガサスの
背から飛び降り



4つ目の力場を破壊するも

クリスタル

はかい

結界が晴れる事は
無かった

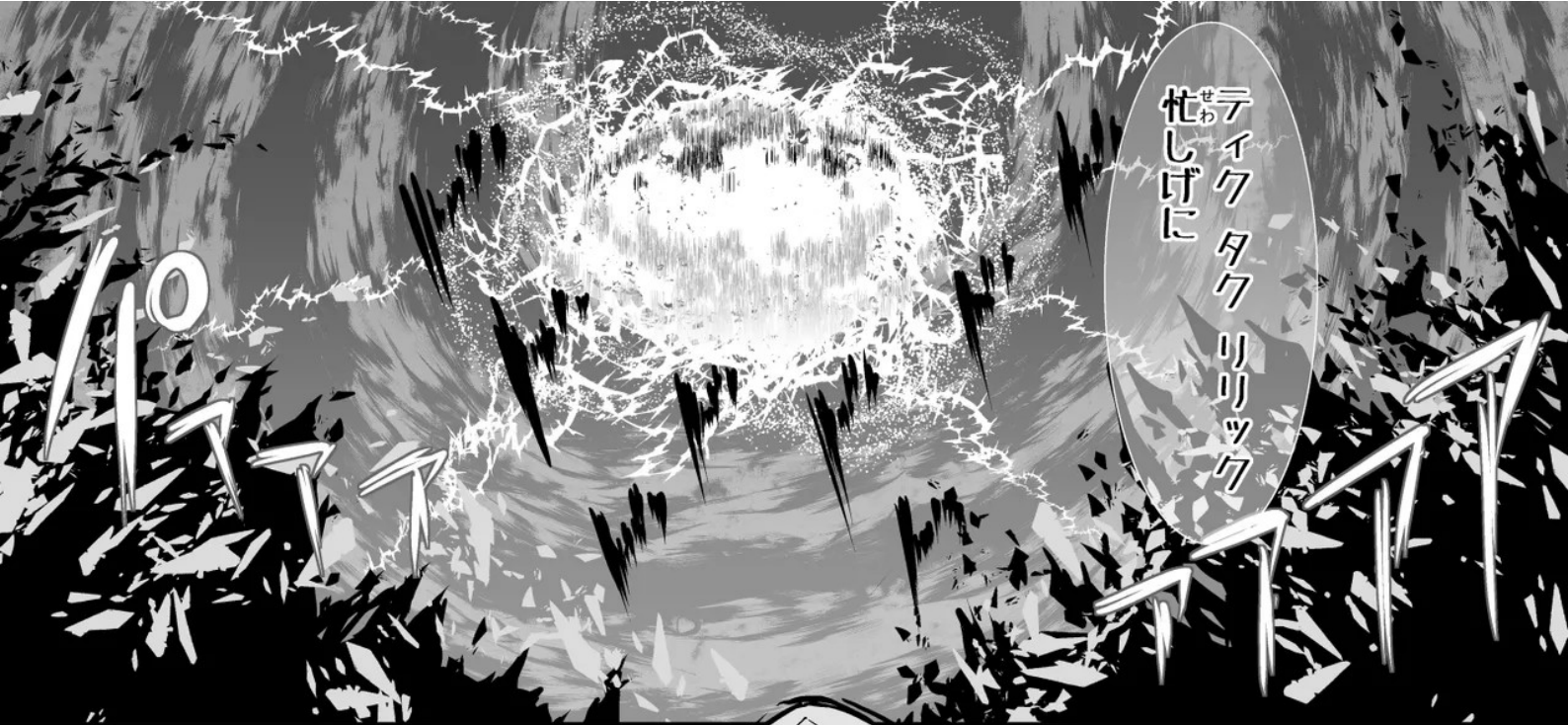
マ……
リアーテ……
それで……
4……つ目？
まだ……
結界……

残……て
まだ……
あ……と……
1つ……？

だめ……もう……
もう……保たない……
ゼフオ……ト……さま……
もう……

も……
間に……合わな……





ティク タク リリック
忙しげに



理に
手を掛けるか



勇者よ

見事だ

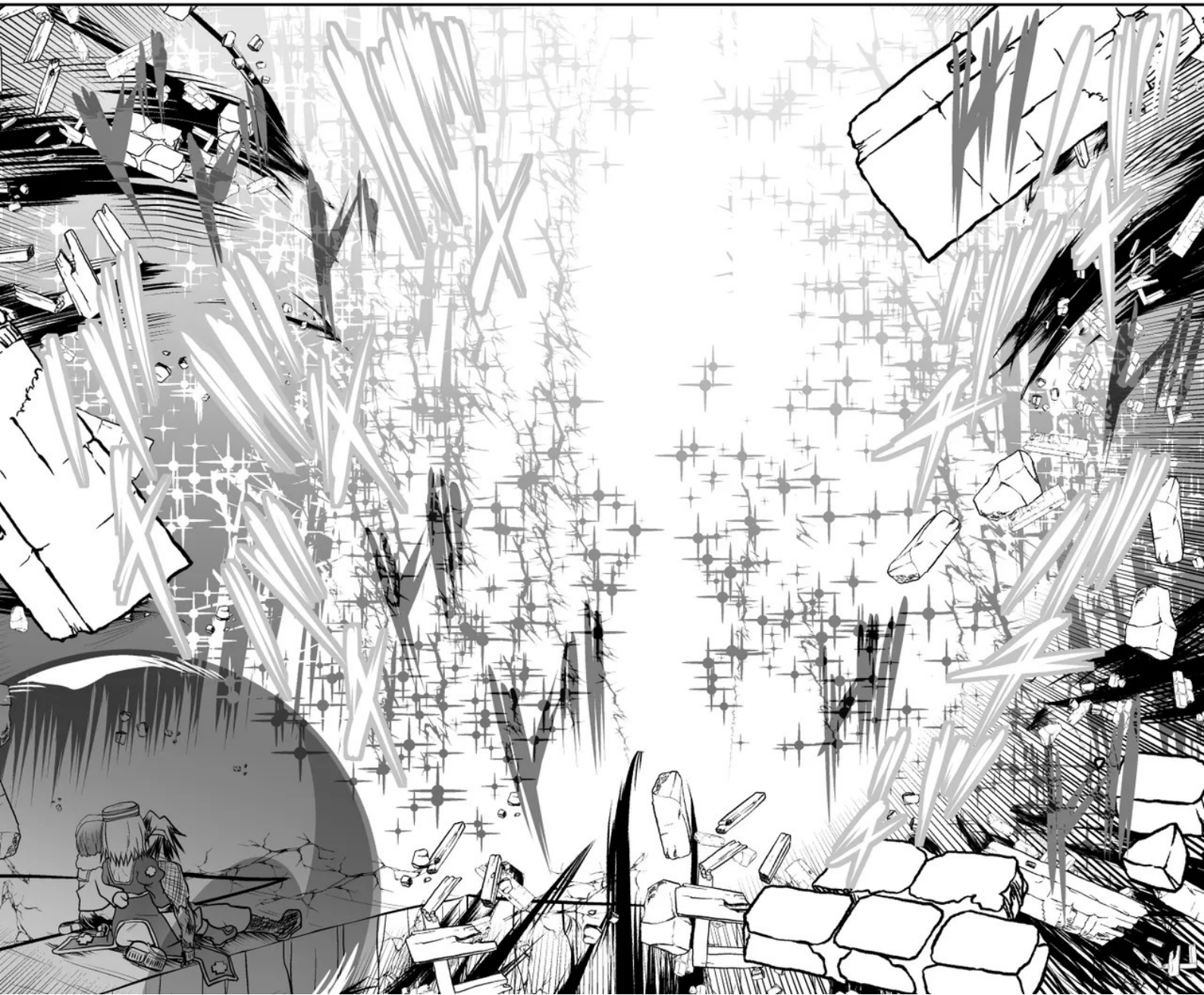
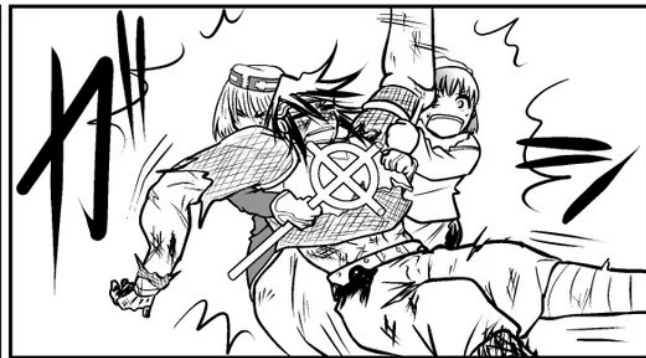
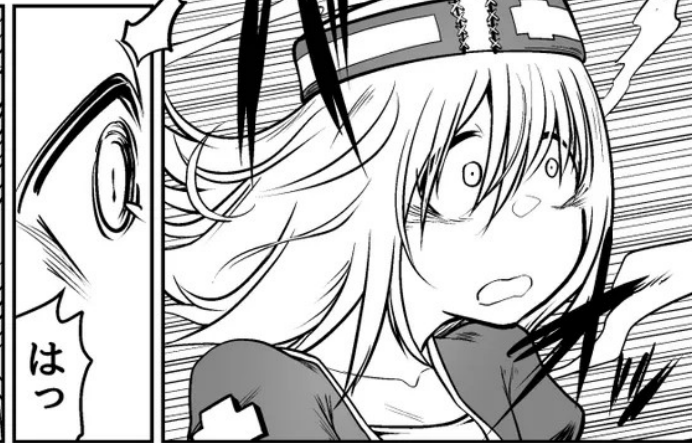
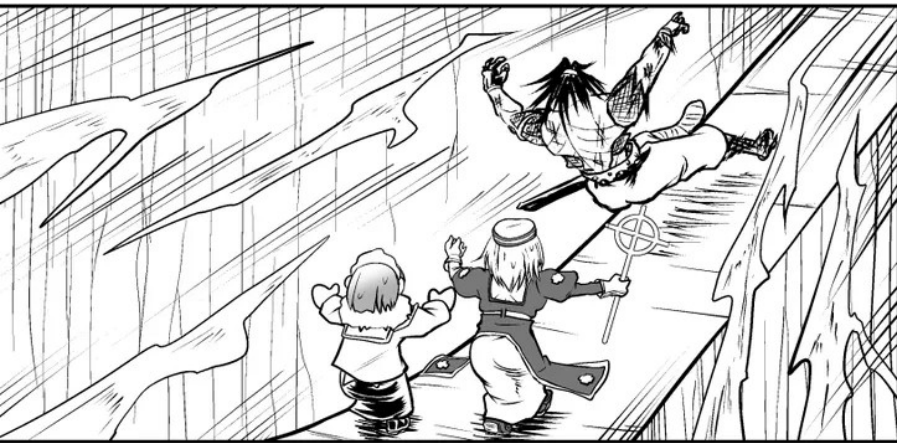


鳥も兎も一束矢の如く
ひとたばや



往^{ヅル}歳^ヴ來^エ歳^ス







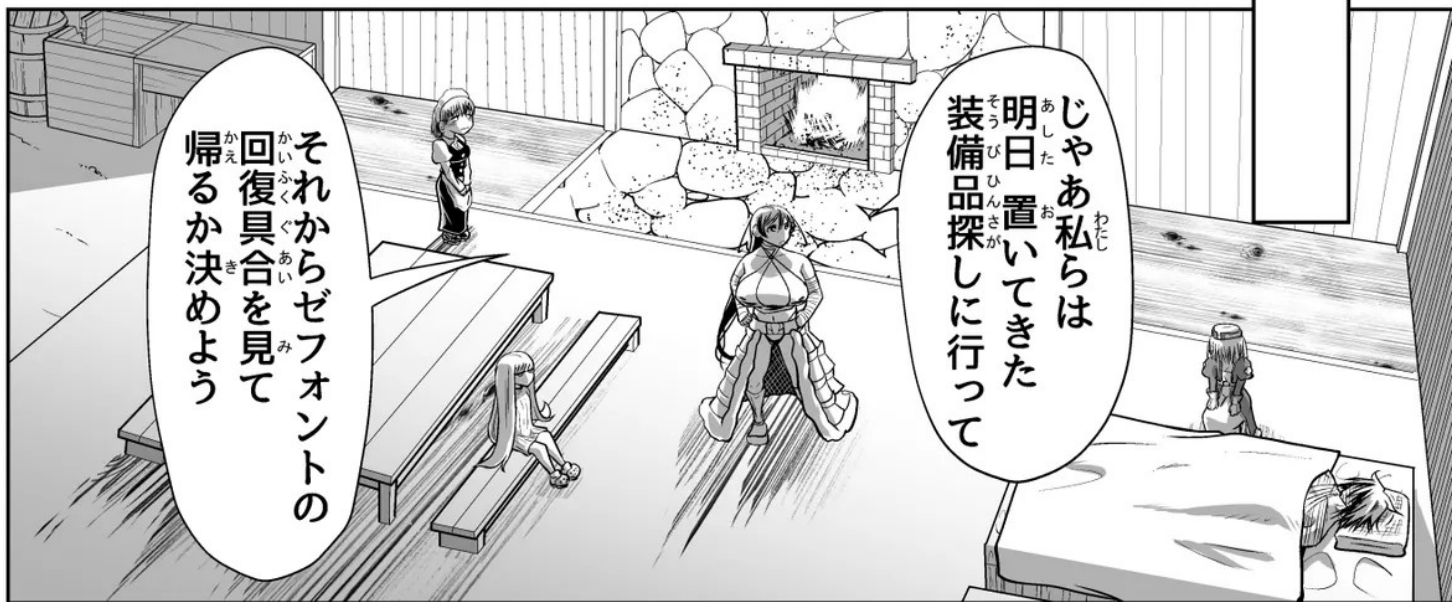
その日、イーロジナス大陸に轟音が鳴り響いた。

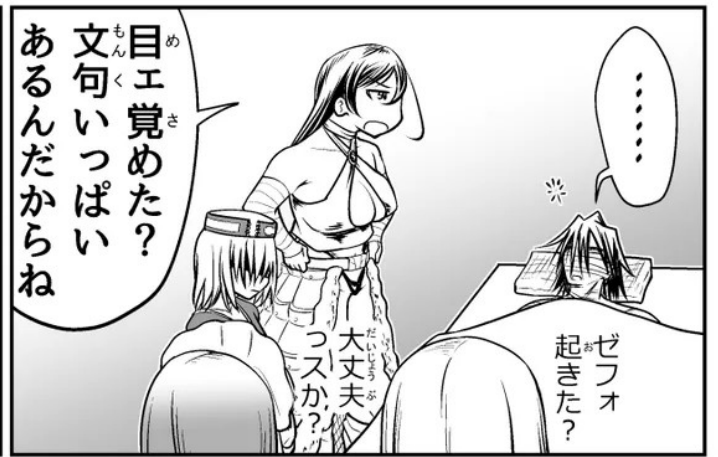
それは神話の時代の終わりを意味し、

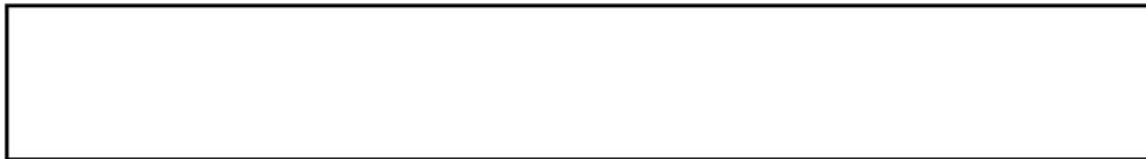
同時に、人による魔法の時代の到来、

戦乱の訪れを告げる鐘の音であつた。

パドルファグ戦記、静寂を破る音より引用

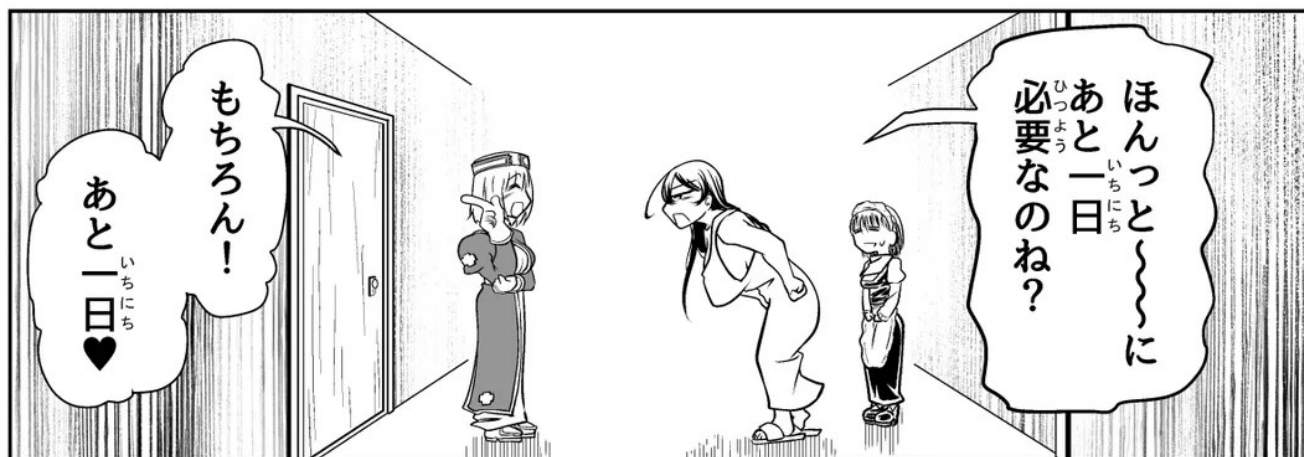
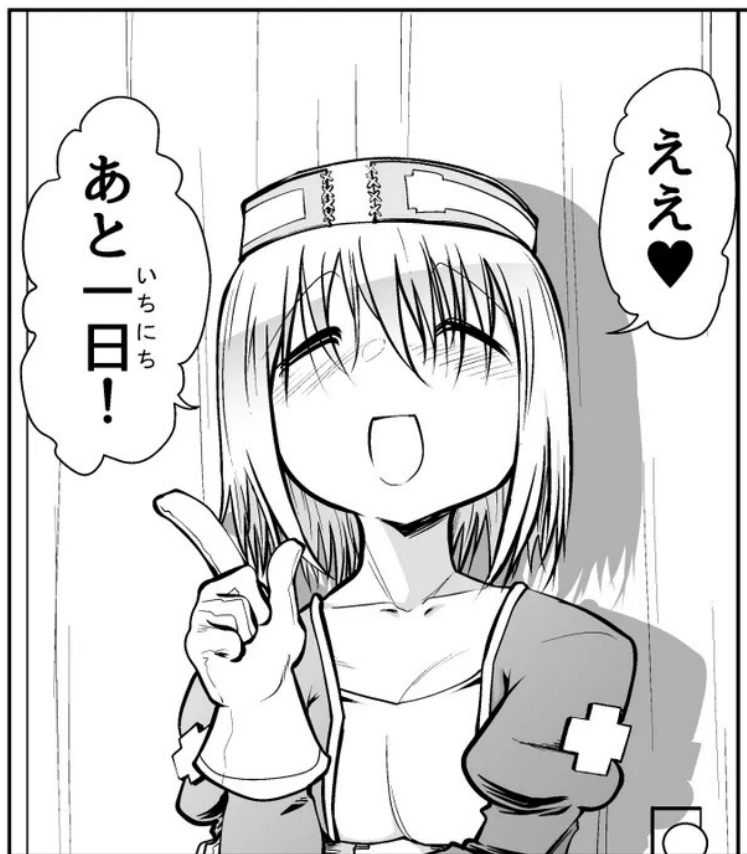








救世の勇者のやり部屋 Ⅲ







しょうがないな…

おいで

はあい♪



やゝ…
それは…
あはは

わかりますよ
だって
マリアーテの事
言ってますん
でしたもん

ひどい人
なんだから…



こりゆうたいじ
古龍退治

最初から一人で
やるつもり
だったんでしょ？



エメアは…



マリアーテ
しばらく
機嫌悪い
んだらうなあ

それは困る…
エメア助けて

えゝ？
どうしよつかなあ♪

この館の秘密…
やかた ひみつ

知ってたの？

はい…

わかって
ました

このマグワインの館に
奉公に来るあの子達が
ほうこう こどもたち

そういう理由で
ここに居ると、
わかっていながら
私は黙っていました
わたくし だま

彼女たちは覚悟していると、
マリアーテに怒られたよ
かのじょ かくご おこ

それを知ってしまった
以上、このまま何も
しないのは卑怯な行いだ
いじやう なに おこ

それは…
ゼフオント様を
独占したいという
浅ましい女心
でしかありません…
どくせん おんなのこころ

僕だって…

でも…君^{きみ}たちを
裏^{うら}切るような真^ま似^ねは
したくないんだ…

だから…君^{きみ}が嫌^{いや}だと
言うのなら僕^{ぼく}は…

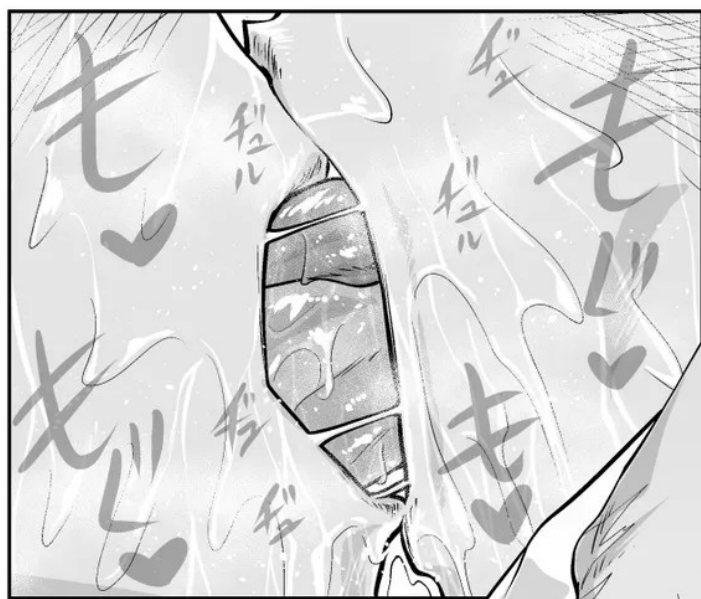
ファツギンを
出^{しゅつ}奔^{ぽん}する…ですか？

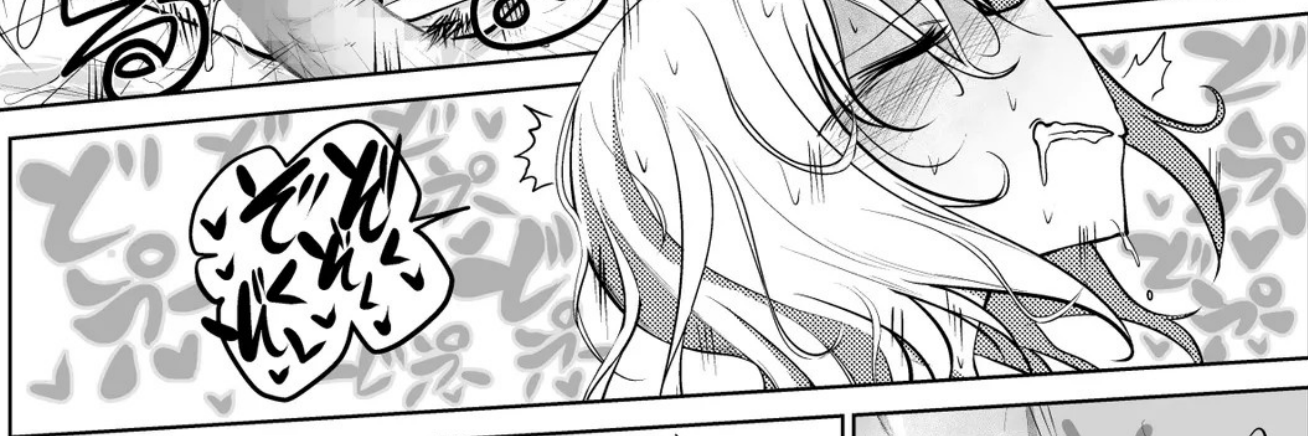
そして
あなたは故郷^{こきょう}
エンプカーを
捨^すてる…

いえ、私^{わたし}が
奪^{うば}うのですね

わかった…

僕^{ぼく}は近^{ちか}いうちに
彼女^{かのじょ}たちを
皆^{みな}抱^だく







おん

いやらしいんだ!

なってる……!

おん

んお

んお

きょうは ぜんぶなかだ 全部中出しだ!!

そつちが その気なら!

ゼフロント様 さま♡

かっせいほうじゅつ
活性法術

ツツツ

ひゃあん♡





またイグツ
すーいーくる♡



一晩
も保たな
かったか…

絶頂から
戻りにく
なつて視界も
桃味がかつて
きた…





もう受け止め
きれないか…

やつぱり
わじひとり
私一人じゃ…



ぜひあんと
しやま…

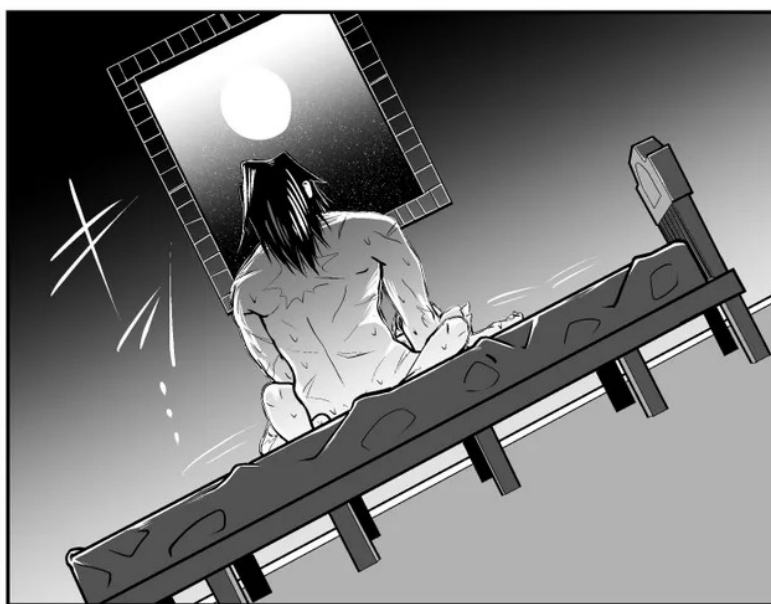
この部屋…
中からなら
いつでも
出れまひや…

私が落ひたら
マリヤーテ達のとこに
行つてくだひやい…



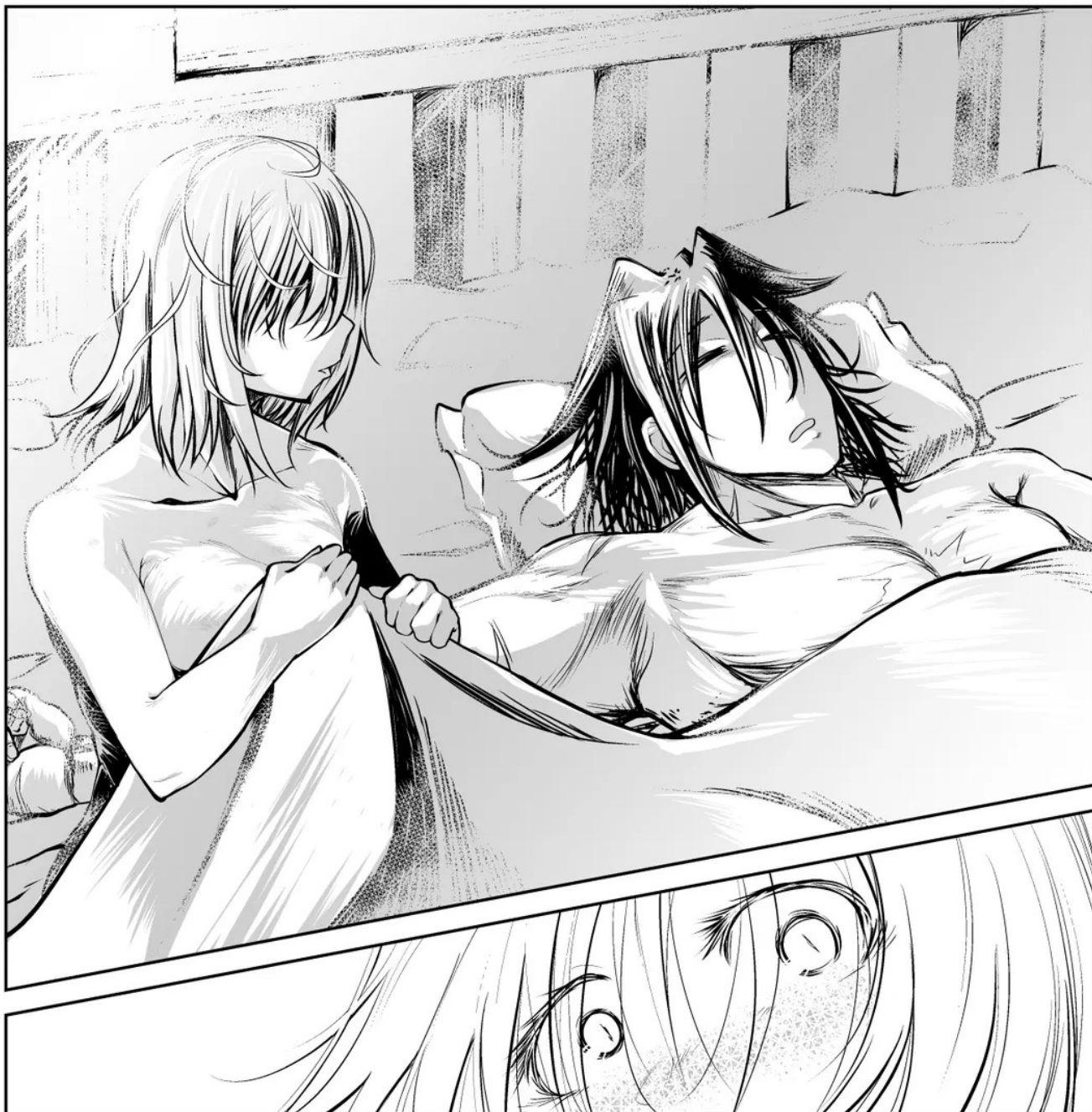
わがままして

ごめんなひやい…



……





つづく...

【救世】、神的存在を討つ



静寂の古龍、目覚める

鋭く尖った風が骨身に染みる季節、ファッギン公国 王室で参考されている【パドルファグ戦記写本】に、看過できない記述が浮かび上がった。公国領土で封印されている神的存在、【静寂の古龍メルセグニール】が覚醒したと。神的存在とは元始の世界から存在し、人類の安寧を揺るがす力を有する魔物である。【パドルファグ戦記写本】にもその存在は幾例か記載されており、一説によると【魔王クオ・ボルチアーメ】も神的存在であったとされている。長い歴史の間に、ほとんどの神的存在は滅んでいったが、【静寂の古龍】は古代の争いで封印され現在まで生き延びていたのだ。

抗うは【救世】の勇者

封印の跡バイオツツ山

【静寂の古龍】が封印されていた場所はファッギン公国北西のバイオツツ山である。生ける伝説である【救世】の勇者が残した、この遺跡の傷跡を一目見れば死闘の激しさを肌で体験できること請け合いだ。新たに現れた観光の名所に、商人達の注目が集まっている。

事態を重く見た公国は、マグワインの館へと馬車を走らせた。勇者一行はこれを快諾、装備を整え【静寂の古龍】の封印へと向かう。三日三晩の死闘の末、【救世】の聖剣が古龍の眉間を貫き、怒れる神を鎮めた。【救世】の勇者が健在の内は、ファッギン公国の平安は揺らぐことはないだろう。



奥付

発行：Verみみずく

発行者：こみずく

発行日：2023/6

twitter：@C0mizk

◇本作品はフィクションです。

実在の人物・団体・事件などには
一切関係ありません。

◇本作は成人向け書籍です。

18未満の閲覧、購読を禁じます。

◇本作を無断で転載・複製・配信・送信
する等を禁止します。